

推進施策評価シート

| | |
|------|--------|
| 対象年度 | 令和4年度 |
| 記載日 | R5.1.5 |

| | | | | | |
|--------|---------------------|--------|---|----|--|
| 実行委員会名 | 魅力発信チーム | 前回評価区分 | — | 担当 | |
| 施策内容 | 福祉フェス（展示室内の各コーナー担当） | | | | |

<事業内容>

| | |
|------|---|
| 事業概要 | 身近な福祉の発見と紹介の「キラリしんしろ☆写真展」の展示(担当 魅力発信チーム) 福祉のまちづくり条例パネル展示(担当 魅力発信チーム) 福祉何でも相談所(担当 地域包括支援センター)※結カフェの紹介 里親制度普及啓発コーナー(担当 新城児童相談所) 男女共同参画啓発パネル展示(担当 市民自治推進課) |
| 事業目標 | 福祉についての魅力を広く伝え、福祉に関心を持ってもらう。 |
| 実施方法 | 写真展やパネル展示、各コーナーでの啓発を通して身近な福祉について知ってもらう。 |

<現状分析>

| | | | |
|-----|---------------------------|---|---|
| 必要性 | ・ニーズの有無 ・社会需要との整合性 | <input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い | 福祉についての情報発信機会は必要 |
| 適切性 | ・手段の最適性 ・役割分担の妥当性 | <input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い | 福祉フェスは大勢の人に情報発信するには最適 |
| 有効性 | ・福祉従事者への効果 ・市民サービスへの効果 | <input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い | 介護・高齢・福祉・障害・保育という福祉従事者が一同に関わることができたのは多職種交流という点で効果があった |
| 課題 | ・実施に当たっての課題 ・成果に対する課題 | 福祉従事者の紹介まではできなかった。写真展の募集周知が不十分だった。 | |

<事業費>

| 令和4年度予算額(円) | 令和4年度執行額(円) | 令和5年度予算額(円) | 令和6年度予算額(円) |
|-------------|-------------|--------------|-------------|
| 報償費 0 | 報償費 0 | 報償費 0 | 報償費 0 |
| 消耗品費 42,484 | 消耗品費 18,909 | 消耗品費 190,000 | 消耗品費 0 |
| 委託料 0 | 委託料 0 | 委託料 100,000 | 委託料 0 |
| 使用料 0 | 使用料 0 | 使用料 10,000 | 使用料 0 |
| その他 0 | その他 0 | その他 0 | その他 0 |
| 合計 42,484 | 合計 18,909 | 合計 300,000 | 合計 0 |

<事業実績>

| | |
|------|--|
| 実施状況 | 【来室者実績】360人 【従事者】魅力発信チーム11人 里親啓発4人 市民自治推進課4人 福祉なんでも相談 3人 準備片付(社会福祉協議会4人・介護ネット6人) |
| 成果 | 来所者が、お年寄りから学生・子ども、障害のある方、介護者、福祉や保育、健康づくり関係者などさまざまな人や立場の人が立ち寄ってくれたのはよかった。来所者の声「素敵な写真が一杯。普段見慣れない写真がみれた」「里親として子育てするときの心配なことなどの具体的な質問があった」「福祉何でも相談は相談件数はなかったが、結カフェの展示は関心持ってみていった」「男女共同参画の4コマ漫画の展示に興味をもって見ていた」など各コーナーでの関心は高かった。 |

<評価・検証>

| | | |
|--------------------|--|-------------------------|
| 成果達成度 | <input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い | 初めてのフェスとしては成果があったと思う |
| 施策貢献度 | <input checked="" type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 低い | 福祉と健康という市民に身近なテーマで関心は高い |
| 総合評価 | <input checked="" type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 休止・廃止 | |
| | 福祉に関心をもってもらうことはできたが、福祉の仕事や事業所などの紹介や魅力発信には至らなかった。 | |
| 事務局コメント (課題・展開) | 講演会が終了した後に展示室に立ち寄る人も多くいた。その時には片付けを始める時間だったので、スケジュールの見直しが必要。ボランティア団体の人が写真を出したかった、という意見もあったので、募集についての準備や周知が課題。 | |

推進施策評価シート

| | |
|------|--------|
| 対象年度 | 令和4年度 |
| 記載日 | R5.1.5 |

| | | | | | |
|--------|--|--------|--|----|--|
| 実行委員会名 | 連携推進チーム | 前回評価区分 | | 担当 | |
| 施策内容 | 研修会の前に市から令和元年から合同研修までの流れを説明(約5分)。その後、合同職員研修(講師の講演会50分+市の取り組み、地域活動紹介20分+取組への講師のコメント・質疑応答約15分) | | | | |

<事業内容>

| | |
|------|--|
| 事業概要 | 改正社会福祉法で明文化された「地域共生社会」の実現に向け、有識者による研修を行い、様々な立場で福祉に関わる福祉従事者とその周辺の方々を対象に、共通理解を深める。 |
| 事業目標 | 福祉従事者とその周辺の方々が、地域共生社会について正しく理解し、今後制度だけでは解決できない様々な人を、地域の連携の中で支える意識を育てる。 |
| 実施方法 | 福祉フェスの中で、合同職員研修を開催し、福祉従事者や福祉に関心の高い人の参加の機会を設ける。 |

<現状分析>

| | | | |
|-----|---------------------------|-----------|---|
| 必要性 | ・ニーズの有無 ・社会需要との整合性 | ①高い・普通・低い | 複雑化した支援ニーズに対応するため、福祉従事者が地域に目を向け、地域の活動も注目される。 |
| 適切性 | ・手段の最適性 ・役割分担の妥当性 | 高い②普通・低い | 高齢・障がい・子ども・生活困窮全ての支援者及び地域との連携が必要。 |
| 有効性 | ・福祉従事者への効果 ・市民サービスへの効果 | ③高い・普通・低い | 福祉従事者は地域での活動を知り刺激を受ける。地域では地域共生社会の考えを実践する意識を高める。 |
| 課題 | ・実施に当たっての課題 ・成果に対する課題 | | 日程が決まっている中での講師との調整。地域共生社会の理念について全く知識のない人にどこまで理解してもらえるか。 |

<事業費>

| 令和4年度予算額(円) | 令和4年度執行額(円) | 令和5年度予算額(円) | 令和6年度予算額(円) |
|-------------|-------------|--------------|-------------|
| 報償費 20,000 | 報償費 20,000 | 報償費 300,000 | 報償費 0 |
| 消耗品費 0 | 消耗品費 0 | 印刷製本費 60,000 | 消耗品費 0 |
| 委託料 0 | 委託料 0 | 委託料 0 | 委託料 0 |
| 使用料 0 | 使用料 0 | 使用料 137,000 | 使用料 0 |
| その他 0 | その他 0 | その他 30,000 | その他 0 |
| 合計 20,000 | 合計 20,000 | 合計 527,000 | 合計 0 |

<事業実績>

| | |
|------|---|
| 実施状況 | 國信先生の講演会、市の取り組みと地域活動の紹介、クロストーク、会場からの質疑応答と講評で90分より少しオーバーした。 |
| 成果 | 講演会のアンケートでは、地域共生社会の人と人がつながることが重要という肝は概ね伝わった。地域活動の実践者についても知ってもらうことができた。時間の都合で地域活動実践者に報告してもらえなかったのが残念だった。 |

<評価・検証>

| | | |
|----------------|---|----------------------------------|
| 成果達成度 | ④高い・普通・低い | 「地域共生社会」について参加者の関心が高まった。 |
| 施策貢献度 | ⑤高い・普通・低い | 制度を越えた人と人とのつながりや地域活動について理解が深まった。 |
| 総合評価 | <input type="checkbox"/> 継続実施 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 休止・廃止 90分の講演会は話を聞くだけならいいが、実践発表など入れると時間が足りない。 | |
| 事務局コメント(課題・展開) | アンケートでは、次回の講演会で再度「地域共生社会」を学びたいという声が多かった。次回のテーマをどう展開していくかが課題。また、進行の仕方や講演回の構成など気づきがいくつかあったため、次回はより良い講演会にしたい。 | |

推進施策評価シート

| | |
|------|---------|
| 対象年度 | 令和4年度 |
| 記載日 | R5.1.10 |

| | | | | | |
|--------|-------------|--------|---|----|--|
| 実行委員会名 | 事業所支援チーム | 前回評価区分 | — | 担当 | |
| 施策内容 | 永年勤続に向けての表彰 | | | | |

<事業内容>

| | |
|------|--|
| 事業概要 | 市内の福祉サービス事業所に継続勤務5年以上の従事者で、各事業所が推薦する職員に対し労いと激励を込めて表彰し、今後の福祉人材の流出を防ぐ。 |
| 事業目標 | 現場の思いに対して、市がバックアップしていることを見える化し、今後の励みとして福祉従事の定着を目指す。 |
| 実施方法 | しんしろ福祉フェスと同時開催し、市長及び大勢の仲間から祝福いただく。 |

<現状分析>

| | | | |
|-----|---------------------------|---|--|
| 必要性 | ・ニーズの有無 ・社会需要との整合性 | 高い 普通 低い | 福祉施策に対して市が応援している姿勢は必要である。 |
| 適切性 | ・手段の最適性 ・役割分担の妥当性 | 高い 普通 低い | 市長から表彰状を渡されることに意味がある。また、市長から直接お言葉を頂けたことで励みになる。 |
| 有効性 | ・福祉従事者への効果 ・市民サービスへの効果 | 高い 普通 低い | 受賞の立場から勤務意識の向上が期待される。 |
| 課題 | ・実施に当たっての課題 ・成果に対する課題 | 事業所の推薦基準の明確化と人数、推薦書様式、記念品の妥当性。授賞式の時間設定、インタビュー内容が適正であるか。 | |

<事業費>

| 令和4年度予算額(円) | 令和4年度執行額(円) | 令和5年度予算額(円) | 令和6年度予算額(円) |
|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 報償費: 76,800 | 報償費: 87,890 | 報償費: 105,000 | 報償費: 105,000 |
| 消耗品費: 4,250 | 消耗品費: 13,600 | 消耗品費: 1,700 | 消耗品費: 5,000 |
| 委託料: 0 | 委託料: 0 | 委託料: 0 | 委託料: 0 |
| 使用料: 11,760 | 使用料: 0 | 使用料: 1,900 | 使用料: 1,900 |
| その他: 144,320 | その他: 0 | その他: 59,700 | その他: 59,700 |
| 合計: 237,130 | 合計: 101,490 | 合計: 168,300 | 合計: 171,600 |

<事業実績>

| | |
|------|---|
| 実施状況 | 15人の従事者に対して、市長から表彰状と記念品7,000円相当(菓子盛り、いいじゃん券)を贈呈。被表彰者や事業所をプロジェクトにて紹介し、インタビューを実施した。 |
| 成果 | しんしろ福祉フェスと同時開催だったため、関係者多数の中での表彰により激励感と高揚感が大きかった。 |

<評価・検証>

| | | |
|--------------------|---|-----------------------------|
| 成果達成度 | 高い 普通 低い | 一定の継続意欲や励みへの効果は期待できる。 |
| 施策貢献度 | 高い 普通 低い | ここから勤続年数の延伸効果については見守る必要がある。 |
| 総合評価 | <input type="checkbox"/> 継続実施 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 休止・廃止 推薦基準の絞り込みを要検討。それに伴い、人数、記念品、職種による順番など公平な表彰基準になるよう改善を要す。 | |
| 事務局コメント (課題・展開) | 公務への報償ラインは要確認。 | |